

宝徳山稲荷大社

この堂々とした神社は、長岡市中心部の外れにある丘の中腹から遠くに見ることができます。黒い切妻屋根と朱色と白の特徴が森の上にそびえ立っています。

宝徳山稲荷大社は、この種の神社でよく見られる木ではなく、主にコンクリートで作られています。コンクリートは、地震や日本のこの地域の厳しい冬の条件から神社を保護します。

神社には 2 つの複合施設があります。下の複合体は 2 つのうち大きい方で、丘の中腹の約半分に位置しています。2 つ目の、少し小さい複合施設が丘の頂上にありますが、地元のお祭りのために年に 2 回だけ使われています。神社では毎年 5 万から 6 万本の赤いろうそくを主な儀式として使用する夜まつりと呼ばれる夜祭り（ナイトフェスティバル）が開催されます。

丘の上の複合施設の隣には小さな石の神社があります。これは宝徳山稲荷大社の最も古くから残っている部分です。この石の神社の正確な年代は、最も古い遺跡の記録である約 1,500 年前よりも古いため不明です。紀元前 900 年に終わった縄文時代後期にさかのぼると推測する人もいますが、これはまだ裏付けられていません。

下り坂の本殿入口には、6 月下旬から 7 月上旬にかけて、縄で縛られた大きな輪っかのような形をした鳥居があります。神社の建物に正しく入るには、人はリングを通して入り、次に「図 8」の動きで出たり戻ったりする必要があります。入り口の横にあるイラスト入りのガイドは、これを行う方法を示しています。建物に入るときは靴を脱ぐことを忘れないでください。

中に入ると、自分自身と彼らの愛する人に祝福と幸運をもたらすために、訪問者は神社の特別な祈りの儀式に従って祈ることをお勧めされます。儀式では、2 セットの色のキャンドルに火を灯し、正しい順序で 2 つの異なる祭壇に置きます。

左から右へ、色の順序は緑、赤、黄、白、紫です。それぞれのキャンドルは、日常生活のさまざまな部分に影響を与えていると言われています。

緑は健康と幸福、そして学術研究の成功を表しています。

赤は、ビジネスの運営と一般的なお金の運の両方の観点から、経済的な成功を表しています。

黄色は、地震、嵐、洪水などの自然災害に対する保護を提供します。

白は家を守り、健康で幸せな状態を保ちます。

最後に、しかしおそらくこの中で最も重要なのは、紫が精神的な健康を守ることです。

（儀式は）最初の祭壇に近づくことから始めます。緑のろうそくに火をつけて、左側に置きます。他の人のやり方に従って、正しい場所に配置することができますでしょう。

次に、赤いろうそくを取り、緑のろうそくの炎を使って火をつけます。そしてそのろうそくのすぐ右側に置きます。

黄色、白、紫のキャンドルについてこのプロセスをすべてのろうそくが点灯するまで繰り返してから、左から右に並んで祭壇に座ります。

次に、お辞儀をし、手を2回拍手し、2回目の拍手後に手を合わせたままにします。静かな祈りを捧げます。一步下がって、深くお辞儀をし、2番目の祭壇に移動してプロセスを繰り返します。

この儀式は、宝徳山稲荷大社ならではのものであり、訪れる際の体験に欠かせないものです。儀式をしたくない人は、神社のさまざまな特徴を観察することができます。

本館の中には、金で飾られた「商売の神」の神社と祭壇があります。このような神社参拝は、家を買う、結婚する、家族を作るなど、大規模な経済的行為を始めようとしている人々にとっての伝統です。ここでは、人々は彼らの試みの繁栄を確実にするために、神々からの幸運と祝福を求めています。

僧侶は一日を通して決められた時間に奉仕を行います。これらは観察することができます。

宝徳山稲荷大社は長岡駅から車で25分のところにあります。電車でお越しの場合は、長岡駅から信越本線で16分、越後岩塚駅で下車してください。神社はそこから徒歩10分です。

神社への入場は無料です。ただし、販売されている多くの幸運のお守りの1つを購入することで、神社の維持管理に寄付をすることができます。